

# 農業技術情報

令和4年10月4日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A 幕別町	0155-54-4118
J A さつない	56-2131
J A 帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

## 各作物の生育・作業の遅速（幕別町10月1日）（ ）内は平年値

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	遅2	は種始 9/16(9/20) は種期 9/27(9/25) は種終 - (10/4)	出芽期 10/- (10/3)
馬鈴しょ	-	収穫期 9/9(9/10) 収穫終 10/3(10/6)	
大豆	遅1	茎長 83.2 (74.3) cm 葉数 9.6 (9.8) 枚 莢数 654.5 (579.8) 個/m <sup>2</sup> 主茎節数 11.6(11.8)	成熟期 10/2(10/1)
小豆	早3	茎長 69.1 (55.0) cm 葉数 12.1 (11.5) 枚 莢数 381.0 (344.2) 個/m <sup>2</sup> 主茎節数 13.1(12.5) 収穫始 9/21(9/27) 収穫期 10/-(10/11)	成熟期 9/19(9/22)
菜豆（金時）	-	収穫期 9/14(9/16) 収穫終 9/25(9/27)	
てんさい（移植）	±0	根周 42.1(40.6) cm	
てんさい（直播）	±0	根周 32.2(32.1) cm	
牧草	-	収穫終 9/26(9/22)	
飼料用とうもろこし	早2	収穫期 9/22(9/20) 収穫終 / (10/6)	黄熟期 9/14(9/16)
ながいも（マルチ）	早1	調整長 51.5(55.1) cm いも重 1184.2(1175.2) g いも径 71.8(65.1) mm 乾物率 13.4(12.9) %	

## 畑作

### <秋まき小麦>

#### 1 雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのは秋期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。

は種後出芽前の土壌処理が基本ですが、やむをえず処理できなかった場合も、出芽後の除草剤散布は必ず行いましょう（9/20付技術情報表3参照）。

## <てんさい>

### 1 収穫時・貯蔵時の注意点

#### (1) 収穫時の注意点

- ① 収穫作業は輸送計画に合わせ、適期に収穫しましょう。
- ② タッピングは切り過ぎないように調整しましょう。
- ③ 根腐症状個体を可能な限り取り除きましょう。

#### (2) 堆積時の注意点

収穫後は、必ずシートで被覆し、乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

### 2 次年度用育苗土の準備

病気の恐れのない健全な育苗土を準備し、pH 測定を実施し目標 pH 6.0～6.5 になるよう粉状炭カルにより酸度矯正をしましょう。

## <豆類>

### 1 小豆の収穫

平年より早く収穫が始まっています。収穫適期の目安は「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう(表1)。

表1 小豆の収穫適期の目安(H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	熟莢率 100% (子実水分 16%～18%) 完熟期 (熟莢率 100%) から2週間以内	① 汎用コンバイン(4条)～熟莢率 90%、 子実水分 25%程度 ② 豆用コンバイン(2条)～熟莢率 80%、 子実水分 25%程度

### 2 大豆の収穫

#### (1) 汚粒対策

わい化病や雑草(特に紫色の実をつけるイヌホオズキ)は、事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

#### (2) 収穫適期

刈り取り時期および時間帯も汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は子実水分が 20%以下(最適は 16%以下)の時とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。適期収穫を心がけましょう。

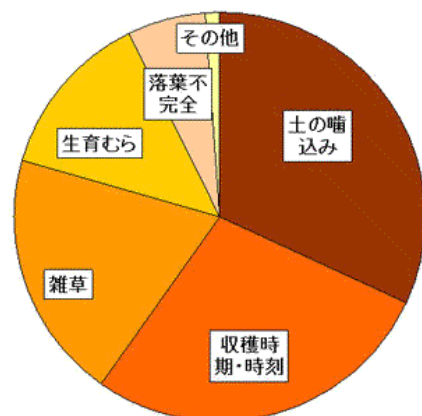


図1 汚粒の発生要因  
(「大豆の機械化栽培とコンバインの収穫事例集」より)

(3) グリホサート系除草剤の収穫前使用(落葉終期～収穫 14 日前まで)について

収穫前に雑草を枯らし、汚粒防止や機械作業性を向上させる目的で国の登録はありますが、使用時期が狭く農薬が豆に残留しやすいことから、品質低下ならびに農薬の適用外使用となるリスクもあります。

このため、ホクレンでは令和2年産以降、収穫前使用した場合、JA の大豆共計では取り扱わないこととしています。

グリホサート系除草剤の収穫前使用にあたっては、受け入れ業者と確認の上散布の判断をして下さい。

### <緑肥のすき込み>

緑肥のすき込みが遅れると、分解が遅れたり次年度以降雑草化する場合があります。緑肥が結実する前(出穂または開花後7～10日を目安)で温度がある時期(遅くとも10月下旬まで)にすき込みましょう。

特に「ひまわり」は、花蕾に菌核病が発生することがあり、後作に「ばれいしょ」、「豆類」、「野菜類(白菜、キャベツ、レタス等)」を作付する場合は、開花前にすき込んでください。

# 野菜

## <ながいも>

いも重、乾物率ともに平年並みとなっています。適期のつる切りにより、品質向上をはかりましょう。

10月1日現在の作況調査結果

	マルチ栽培	露地栽培
いも重	1,184 g (平年値:1,175 g)	1,162g (平年値:1,148g)
乾物率※	13.4 % (平年値:12.9 %)	13.9 % (平年値:13.3 %)

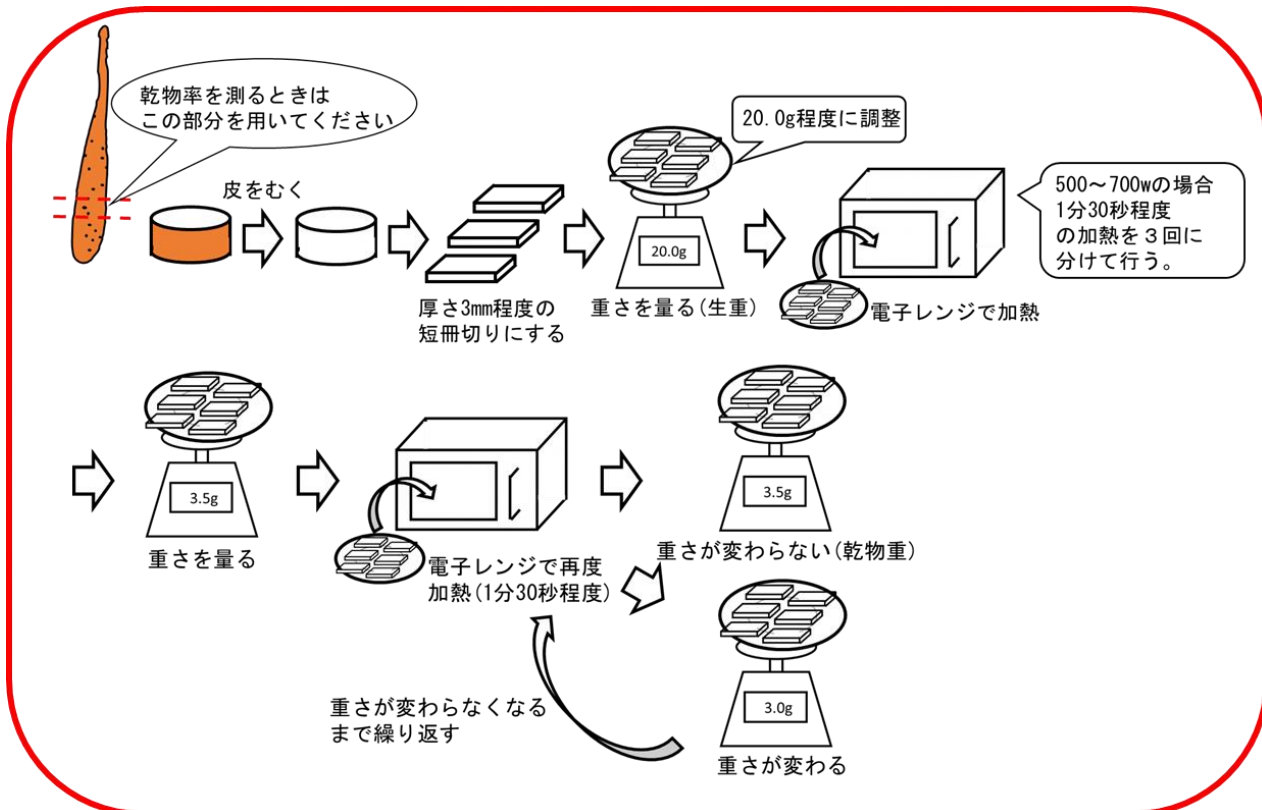
※乾物率は、(低)15%未満、(中)15~17%、(高)17%以上とされています。乾物率が低いと貯蔵性、食味の低下に影響します。

### (1)つる切り、つる降ろし

- ・実施前に試し掘りをし、尻部が丸く硬くなっていることを確認してから行ってください。
  - ・つる切り、つる降ろしは、茎葉が黄変した後に実施してください。黄変前のつる切りは未熟いもの原因になるため注意してください。
  - ・茎葉黄変になる前に霜を受けたほ場では、10月20日以降につる切りを行ってください。\*
- ※2006年に東部管内で実施した調査で、10月20日以前(茎葉黄変前)に強い霜を受けて茎葉が枯死しても、いもへの養分転流は進むことが確認されています。

### <参考>

☆簡単な乾物率の測り方(精度は±1%程度)焦げた場合は低い値が出ます。



○乾物率=(乾物重÷生重)×100

<注意点>紙皿を用いる際は、加熱により紙皿の重さも変化するため注意してください。また、アルミ皿だと発火するため使用しないでください。

電子レンジ加熱の際は臭いが発生するためこまめに換気してください。

## <たまねぎ>

### (1) 有機物(堆肥)の投入

現状の地力を維持するためには、堆肥で2~3t/10aが必要とされています。堆肥等の有機物を投入し、気象変動に対応できる土づくりに努めてください。

### (2) 透排水性の改善

収穫や収穫物の搬送作業など、大型機械による踏圧により透排水性が悪化しています。コンテナ搬出後にサブソイラ等による心土破碎を実施してください。

### (3) 土壌改良資材の施用

- ・たまねぎの適正pHは6.0~6.5、有効態りん酸は60mg~80mg/100gです。
- ・低pHやりん酸不足は、定植後の初期生育の遅れや葉先枯れ、登熟の遅れ等、生育に影響があります。
- ・土壌診断を実施し、健全なほ場管理を行ってください。りん酸、加里の蓄積が見られる場合は、減肥銘柄の選定により施肥バランスの改善を図ってください。

### (4) 来年の苗床準備

- ・熟畑化した苗床は、有効態りん酸や加里の過剰な蓄積により土壌養分のバランスがくずれ、育苗中に生育障害が発生しやすくなります。
- ・事前に苗床のpH、ECを測定して、土壌分析値に基づいた土壌改良および適正施肥を行ってください。

### (5) 苗床の融雪水対策

ハウス周辺からの融雪水の侵入に注意が必要です。ハウス周辺の明きょ設置やハウスビニールの縁の埋設などの対策を行ってください。

## <はくさい>

### (1) 菌核病・べと病、黒斑病、白斑病の防除

菌核病やべと病は 20℃前後の多湿条件下で発生が助長されます。雨が予想される場合は発生に注意してください。

※薬剤については、「令和4年度農作物病害虫防除基準または9月20日技術情報」を参照。

### (2) 害虫防除

気温が低くなるとアブラムシ類やヨトウガが結球内部に入りやすくなります。結球内部に入る前に防除を行いましょう。

※薬剤については、「令和4年度農作物病害虫防除基準」を参照。

### 日没が早まり視界もすぐに悪くなります。

薄暗がりでは機械の周辺で作業する人が見えにくくなります。

クラクションを鳴らし、周囲に合図してからゆっくり発進するようにしましょう。

・公道を通行する場合は、早めにライトをつけ、夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。

・収穫機の調整や詰まりものは、必ずエンジンを止めてから除去しましょう。

・衣服の袖口や裾はボタン・ファスナーを止めて、身体に密着させましょう。

・靴やステップが泥の付着により滑りやすくなります。機械ステップの昇降時は、十分注意しましょう。

**※収穫残さ物のほ場での焼却は止めて堆肥化に努めましょう。**